

学校評価書

学校名(東温市立栢志小学校)
令和6年2月15日

- 1 学校の教育目標 気づき、考え、よく動く児童の育成
2 経営の基本方針 地域・保護者と共に歩み、安全・安心でぬくもりのある学校づくりを進め、確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成を図る。(評価・・・4:達成 3:ほぼ達成 2:達成されていない 1:改善が必要)

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			○ 考察 ● 改善方策	学校関係者評価委員の評価
	太字：重点項目		教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	いじめを許さない毅然とした指導と、不登校への予防的取組に努めた。	3.5	3.7	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「いじめ・不登校の対応」「児童理解の促進」は、高い評価となっている。これは、生活アンケートや児童との会話から悩みを把握したり、教職員間で気になる児童の情報交換を日常的に行うなど、チーム体制で問題の早期発見対応ができたからだと考える。また、生活アンケートの結果を学年だよりで伝えるなど、いじめに関わる情報発信をしたことで、保護者に安心感をもたせることにつながったと考える。 ○ 「基本的生活習慣の定着」については、児童会が主体となって「あいさつ運動」を行ったり、教職員が登下校時の挨拶指導を続けたりしたことにより、地域の方にも進んで挨拶をしようとする態度の育ちにつながってきている。 ○ 不登校傾向の児童に対して、東温市特別支援教育アドバイザーや適応指導教室の先生方と連携し、定期的に保護者との教育相談を実施するなど、児童の成長につながるよう根気強い対応を続けた。また、校内のケース会議を定期的に行い、不登校傾向の児童の成長につなげるための方策を検討するとともに、チーム支援体制を整え、学校での居場所づくりや教育環境等の整備の充実に努めた。 ● 「基本的な生活習慣の定着」では、保護者の評価が十分高いとは言えない。また、地域見守り隊の方から挨拶ができる子とできない子の二極化が見られるという声をいただくこともあった。「あいさつ運動」「ここに貯金」などはよりよく改善しながら取り組むとともに、児童の生活実態を把握するためのアンケート実施等により課題を明らかにし、その改善に向けて具体的方策を検討し実施していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・不登校の問題については、これをゼロにするのはとても大きなパワーが必要だが、減らしたり増やさないようにしたり、保護者と学校と地域が協力していきたい。 ・登下校時の見守り活動で児童と挨拶を交わすことがあるが、気持ちのよい元気な挨拶ができる子とそうでない子が見られる。栢志小学校の児童の課題と捉え、今後も継続した指導が必要である。 ・厳しさをもち指導することもあると思うが、児童の目線に立った指導をしていくことを継続してほしい。
	基本的生活習慣の定着	気持ちのよい挨拶や、早寝・早起き・朝ご飯などの基本的生活習慣の定着に努めた。	3.5	3.4	3.0		
	児童理解の促進	児童情報を共有し、児童理解に基づく教育相談、教育環境の整備に努めた。	3.7	3.6	3.3		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	学習状況に対応した学習指導内容・方法を工夫し、基礎・基本の充実に努めた。	3.6	3.5	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT機器を積極的に取り入れながら、児童の興味・関心を高め、分かりやすい授業づくりに努めた。また、1人1台端末を活用してドリル学習に取り組みせたり、EILSによる振り返りテスト等を実施したりすることで、基礎・基本の定着に努めた。 ○ 家庭学習については、児童の学力に応じて宿題の内容や量を工夫したり、自主学習ノート「くすのは」や1人1台端末を使った課題などに取り組ませたりすることで、能動的に学習しようとする態度の育ちにつながっている。 ○ 「協働的な学びの充実」については、授業でペアやグループなど目的に応じた多様な形態の話し合い活動(ハイリソタイム)を取り入れるとともに、教師が児童の考えを練り合わせるようコーディネートすることで、相互に考えを深めたり広げ深い学びとなるよう努めた。 ● 1人1台端末の家庭利用は進んできている実態はあるが、ドリル学習に取り組ませるだけでなく、双方向性やロイノート等の機能を十分生かした家庭学習の工夫は課題である。情報交換によって他校の進んだ実践を取り入れたり、校内研修で互いの実践を紹介し合ったりするなどして、一人一人の教員の活用力強化を図りたい。また、児童が1人1台端末を効果的に学びに生かせるようなメディアリテラシーを高めるとともに、安心・安全な活用のためのネットモラルの育成に努めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方が、児童のことをよく考え、いろいろと工夫をして学びを深めてくれていることが分かった。 ・学校の中で、様々な体験を通した学びができていくことがすばらしく、だんだんと充実した教育の場になってきていると感じる。 ・授業を参観し、先生方が各自の特性や得意分野を生かしながら頑張っていることが伝わってくる。 ・宿題の内容や取り組み方については、保護者の要望もあると思うが、音読を聞くなど、保護者が協力できることもあり、ご理解いただけるよう働き掛けがあるといよい。
	家庭学習の充実	宿題の内容や量の工夫、確実な見取り・処理、保護者との協力により、家庭学習の習慣が定着するように努めた。	3.7	2.5	3.1		
	協働的な学びの充実	協働的な学びの場づくりを工夫し、主体的に考え、学びを深めるよう努めた。	3.4	3.4	3.3		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	思いやりの心を育み、よりよくともに生きようとする児童の育成に向けて、道徳教育の充実に努めた。	3.4	3.5	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 愛媛県教育委員会人権・同和教育訪問をきっかけとして、道徳科や学級活動を中心に、他教科との関連を図った人権・同和教育年間指導計画となるよう見直しを行った。これを生かし、教師が人権・同和教育の視点をもつとともに、道徳科や他の教科等との関連を意識した授業を展開することで、児童の人権意識の高まりや道徳性の育ちにつながることであった。また、校内研修会だけでなく終礼時の短かい時間を生かした人権ポイント研修を年間通して実施したことで、教師の人権意識に対する知識や人権意識の高揚につながり、日頃の指導に生きるものとなった。 ○ 昨年度と同様に、「仲間づくり・集団づくり」は、高い評価となっている。これは「仲間意識に支えられた集団づくり」を目指し、全校体制で「仲間づくり・集団づくり」に取り組んだ成果と考える。また、児童が主体となって取り組む集会・異学年集団活動や「ありがとうの木」など友達によさに触れるような環境づくり等、工夫・充実に図った効果の表れだと考える。 ○ 「健康づくり・体力づくり」では、昨年度までコロナ禍の影響を受け、活動に様々な制限があったが、本年度は、運動会、マラソン大会などの体育的行事だけでなく、水泳学習も制限無く伸び伸びと取り組ませることができ、児童の体力の向上や運動に親しみ健康的な生活をしようとする態度の育ちにつながった。 ○ コロナ禍で人と関わる経験が不足していた児童にとって、様々な他者との関わりは大切にされるべきことと考える。今後も、集会や異学年集団活動等の工夫・充実に努め、人との関わりを通して学ぶ機会の保障に努めたい。また、本年度の研究を生かして、人権・同和教育の視点を重視しながら集会や異学年集団活動を仕組み、心豊かで思いやりにあふれ、自他を大切に育てる児童の育成につなげていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・性教育の充実に努め、男子と女子がそれぞれを尊重し合い、いたわり合うことのできる児童を育てたい。 ・ゲストティーチャーとして授業に入ることもあり、児童は仲のよい友達同士、思いやりをもって生活している様子がうかがえ、うれしく感じた。 ・栢志の子どもたちは純粋な心をもち育っている。今後とも情操を育むことに力を入れてほしい。 ・以前は全校給食を行っていた。新型コロナウイルス感染症については大きな心配はない時期になってきたので、本校の特色ある取組として継続していくとよい。
	仲間づくり・集団づくり	異学年活動やなかよし遊びを実施し、学年を超えた関わりの中で、人間関係づくりを推進した。	3.5	3.5	3.5		
	健康づくり・体力づくり	健康的な生活への実践力を培う健康教育を推進した。	3.5	3	3.4		
	食育の充実	給食を通して、好き嫌いをなく食べるなどの食に関する指導を推進した。	3.4	3.3	3.0		
特別支援教育	特別支援教育の充実	配慮を要する児童についての共通理解を図り、きめ細かい学習支援に努めた。	3.5	3.3	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個別の支援を要する児童について、東温市特別支援教育巡回相談での講師の先生のご指導や校内支援委員会(ケース会議)で検討した合理的配慮について、教職員が意識統一して指導に当たること、児童の成長につながってきている。 ○ 個別の支援を要する児童の保護者のニーズに応じ、重信中学校のスクールソーシャルワーカー等、関係機関の方に協力していただきながら放課後デイサービスなどにつながり、児童が下校後有意義に過ごすとともに、精神的な安定を得ることにつながった。 ● 学習面・行動面において配慮が必要な児童について、学校での児童の様子をこまめに家庭連絡したり、保護者の思いや願いをよく聞き取ったりして、共通理解を深めて指導に当たるようにする。また、学級担任と学校生活支援員、特別支援コーディネーターが連携し、一人一人の児童の困り感を把握して適切な合理的配慮を行い、児童の成長につなげていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、我が子が特別支援学級で指導をしてもらう機会が増え、それからの子どものよい変化が表れており、その早さに夫婦で驚いている。関わってくれている先生方の愛情の深さや支援体制の充実に感謝している。 ・個別の支援を要する児童に、先生が励ましの声をかけている姿が見られた。よく支援をして、スムーズに学習できるような配慮ができていた。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	見守り隊活動などによる、登下校の安全確保に努めた。	3.7	3.4	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの地域見守り隊の方が、毎日、児童の登下校を見守ってくださり、児童と保護者の安心感につながっている。また、地域見守り隊の方が日頃から児童に対して挨拶や声掛けをしてくださっており、児童も地域の方に親しみをもつとともに温かな気持ちになっていることに心から感謝したい。 ○ 火災や地震、大雨、不審者侵入など、様々な想定で避難訓練を行うことができた。また、休み時間に予告なしの避難訓練を行ったり、余震がくることを想定した避難訓練を行ったりして、災害時、児童が主体的に判断し、自分の命を守る行動が取れるような実践力を高めることにつながった。 ● 通学路に木の枝が張り出しているところがあり、地域の方から安全を考えて通学路を変更してはどうかとご提案をいただくことがあった。関係の支部長(保護者)に連絡済であるが、支部内で積極的にご検討いただき、児童にとって安全な通学路となるよう働き掛けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団登校で学校に行けていない児童がいるのが心配である。児童が集団登校ができるよう保護者に協力が得られるような働き掛けも必要ではないか。 ・通学路については、児童の安全を第一に考えながら、必要な場合には積極的に変えていくことも考えていくとよい。
	防災教育の充実	災害時の対応について、教職員、児童、保護者の意識の高揚に努め、避難行動の訓練を行った。	3.8	3.6	3.5		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	地域の教育力を生かしたり、地域に貢献したりする教育の推進に努めた。	3.7	3.4	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会の委員の皆様には、定例会だけでなく、日頃から学校によく足を運んでくださり、児童の様子や本校の教育活動について、お付き合いのことやご意見などを積極的に伝えてくださり、工夫・改善のきっかけづくりをしていただいた。また、委員の皆さんには、栢志小や児童に対して深い愛情をもち、温かく見守り関わってくださっていることに心から感謝したい。 ○ 地域学校協働活動についてご理解、ご協力をいただき、地域連携コーディネーターさんが中心となって、学校の要望に応じた様々な方々を学校の教育活動へとつなげてくださり、体験的で有意義な児童の学びの機会を提供して下さっていることがありがたい。 ○ ホームページの記事を日々更新したり、学校・学年だよりを定期的に発行するなど、児童の様子や学校の教育活動等について保護者・地域の方々に広く発信するよう努めた。 ● 学校運営協議会の委員さんや地域の方が、日頃からより気軽に学校に足を運んでくださり、子どもたちと活動を共にしたり、語り合ったりするような開かれた学校となるよう、学校運営協議会での熟議等を通して具体策を考え改善につなげていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会等に声掛けて学校に来てもらっているが、気軽には学校へ行きにくいとの声もある。もう少し開かれた学校にするためにどうすればよいか今後考えて行く必要がある。 ・地域行事の参加について、子どもたちより保護者の方が消極的であると実感することがある。このことを受けて、地域でも方策を考えたいが、学校の協力も得て改善していきたい。 ・地域の皆さん、先生方、保護者、みんなが栢志小学校のことを大切に思い、支えてくれているということを実感している。 ・「学校、保護者、地域の連携で子どもを育てることができているか」という点について、保護者がどのように捉えているのか確認できる評価がほしい。
	情報発信	校報や学年だより、ホームページなどによる情報発信に努めた。	3.7	3.1	3.5		
特色ある学校づくり	プログラミング教育	プログラミング的思考を育成するため、各教科等で実践し、児童にプログラミングを体験させるよう努める。	3	3.2	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校のこれまでのプログラミング教育への充実した取組を生かしながら、各学年で年間指導計画に沿った授業を実践したり、クラブ活動でプログラミングを楽しみながら行ったりすることを通して、児童のプログラミング的思考を高めることができた。 ● 本校のプログラミング教育の取組がブラッシュアップするよう、教育センターの出席講座を受講したり、校内で各教員の取組の紹介をし合ったりして、研修を深めていきたい。また、本校でのプログラミング教育についてホームページ等で知らせているが、保護者により理解していただけるような発信の工夫を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング教育について、実際にどのような授業をしているかがやや分かりにくい。参観日などに、親子でプログラミングを体験するなどの機会があれば、保護者や地域の方にも分かりやすいのではないかと。
施設・設備の充実	ICTの有効活用	パソコンや実物投影機、電子黒板などの整備された機器を有効活用し、教育効果を高めるように努めた。	3.4	3.5	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ パソコンだけでなく、実物投影機や電子黒板(ワイード)など、導入されているICT機器の活用スキルを教員一人一人が身に付け、日常的に授業に生かすことができた。また、ICT支援員に授業準備や授業でのサポートをしていただくことで、ICT機器の有効活用が進むとともに、教員の負担軽減につながった。 ○ 地域連携コーディネーターさんや各区長さんが中心となって、地域の方々に声を掛けていただき、校内の草刈りや剪定を行ってくださった。気持ちのよい環境を保っていただくとともに、教員の負担軽減につながった。 ● ICT機器の導入は進んでいるが、より効果的な活用ができるよう計画的・継続的に教員の研修を深めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室環境等をよく見せてもらっているが、児童の製作物を工夫して掲示するなどして、温かみのある環境になっていると感じる。
	学習・生活環境充実への取組	潤いと安らぎをもたらす学校教育環境の整備と美化に努めた。	3.4	3.5	3.3		